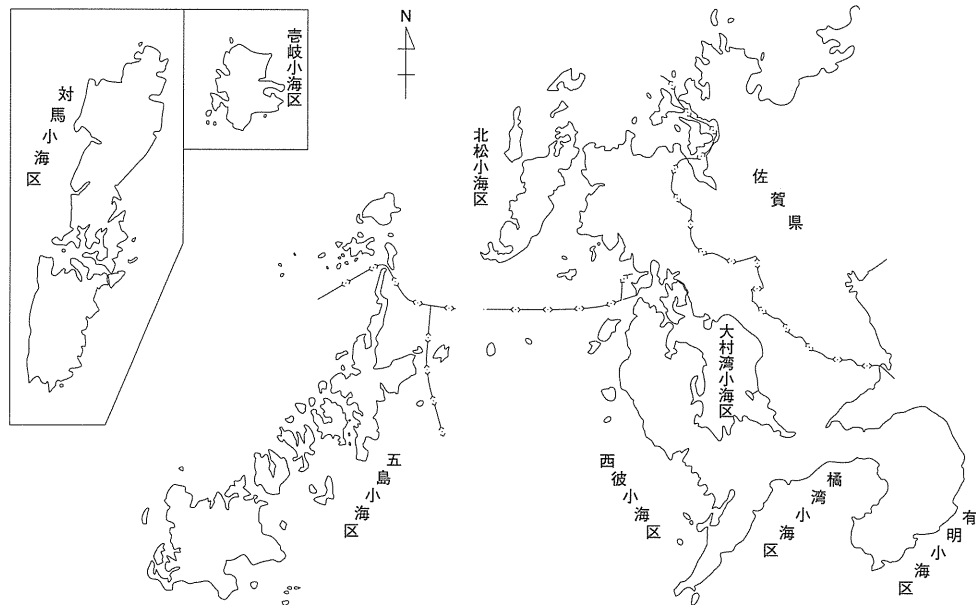


3 海区の特徴

長崎県は九州の西北部に位置しており、多くの島や半島、湾、入江などを有し、その海岸線は変化に富んでいる。また、その周辺海域は、北上する対馬暖流、九州西沿岸水、黄海冷水などの異なる水系が混じりあい、加えて、海域内に数多くの天然礁が点在していることから、魚群が蟄集・滞留する好漁場に恵まれている。



長崎県漁業地区設定図

長崎県海域は、農林水産統計上、長崎県漁業地区設定図に示すような、対馬海区、壱岐海区、五島海区、北松海区、大村湾海区、西彼海区、橘湾海区、有明海区の8海区に区分されている。これらの海域はその立地条件により、対馬暖流の影響を直接に受けたり、その分派流や反流、沿岸水の影響、また、島、湾、半島、入江、などの形状、海底の起伏、底質などの相違によって、営まれる漁業も異なっている。

そこで、県下の主要漁業15種について、各海区ごとに、平成7年より同10年までの4年間の平均経営体数とその漁業全体に占める割合を表3.1に、各漁業について盛んな海区順に1位から4位までを表3.2に示した。また、各海区毎に、海区の漁業全体に占める主な漁業の漁獲割合等を表3.3に示した。

表3.1 平成7～10年までの4年間の平均経営体数

漁業種類	海区								合計
	対馬	壱岐	北松	大村湾	西彼	橘湾	有明	五島	
地びき網	1 16.7%			1 66.6%	1 16.7%				6 100%
ひき回し船びき網			76 84.4%	1				13 14.4%	90 100%
ひき寄せ船びき網		1	156 87.6%	3		3	15 8.4%		178 100%
小型底びき網			65 7.8%	415 49.9%		306 36.8%	45 5.4%		831 100%
中・小型まき網	4 4.4%		47 52.2%	7 7.8%	9 10.0%	12 13.3%		11 12.2%	90 100%
その他の刺網	111 6.4%	76 4.3%	384 22.0%	223 12.8%	204 11.7%	138 7.9%	261 14.9%	350 20.0%	1,747 100%
その他の敷網	2 3.7%		21 38.9%	1		4 7.4%	26 48.1%		54 100%
大型定置網	13 33.3%	2 5.1%	5 12.8%					19 48.7%	39 100%

漁業種類	経営体数(下段%)								
	対馬	壱岐	北松	大村湾	西彼	橘湾	有明	五島	合計
小型定置網	44 10.4%	7 1.7%	101 23.9%	67 15.9%	28 6.6%	31 7.3%	5 1.2%	139 32.9%	422 100%
はえ縄	153 22.0%	8 1.1%	97 14.0%	44 6.3%	95 13.7%	91 13.1%	79 11.4%	128 18.4%	695 100%
イカ釣	854 33.5%	641 25.1%	455 17.8%	8	30 1.2%	4	30 1.1%	529 20.7%	2,551 100%
その他の釣	387 11.0%	333 9.5%	579 16.5%	195 5.6%	563 16.0%	235 6.7%	356 10.1%	860 24.5%	3,508 100%
採貝	359 28.7%	140 11.2%	261 20.8%	40 3.2%	62 4.9%	51 4.1%	221 17.6%	119 9.5%	1,253 100%
採草	68 24.2%	4 1.4%	44 15.7%	16 5.7%	121 43.1%	4 1.4%	3 1.1%	21 7.5%	281 100%
その他の漁業	100 13.7%	41 5.6%	98 13.4%	141 19.3%	98 13.4%	49 6.7%	106 14.5%	96 13.2%	729 100%

表3.2 漁業種類別の経営体数の多い海区

漁業種類	順位	1位	2位	3位	4位
地びき網		大村湾 66.6%	西彼	対馬	
ひき回し船びき網		北松 84.4%	五島 14.4%		
ひき寄せ船びき網(吾智網)		北松 87.6%	有明 8.4%		
小型底びき網		大村湾 49.9%	橘湾 36.8%	北松 7.8%	
中・小型まき網		北松 52.2%	橘湾 13.3%	五島 12.2%	
その他の刺網		北松 22.0%	五島 20.0%	有明 14.9%	
その他の敷網		有明 48.1%	北松 38.9%		
大型定置網		五島 48.7%	対馬 33.3%	北松 12.8%	
小型定置網		五島 32.9%	北松 23.9%	大村湾 15.9%	対馬 10.4%
はえ縄		対馬 22.0%	五島 18.4%	北松 14.0%	西彼 13.7%
イカ釣		対馬 33.5%	壱岐 25.1%	五島 20.7%	北松 17.8%
その他の釣		五島 24.5%	北松 16.5%	西彼 16.0%	対馬 11.0%
採草		西彼 43.1%	対馬 24.2%	北松 15.7%	五島 7.5%
採貝		対馬 28.7%	北松 20.8%	有明 17.6%	壱岐 11.2%
その他の漁業		大村湾 19.3%	有明 14.5%	対馬 13.7%	北松・西彼 13.4%

表3.3 各海区における主な漁業の漁獲割合等

海区名	特徴漁業	総経営体数比	総漁獲量比	1経営体当り漁獲量	主魚種と全体比	経営体数の多い漁業	総経営体数比	総漁獲量比	1経営体当り漁獲量	主魚種と全体比
対馬	釣漁業	イカ釣 40.7%	43.3%	13.3トン	スルメイカ 79.5%	イカ釣	40.8%	43.3%		
		その他の釣 18.5%	9.1%	6.1トン	ブリ類 74.4%	その他の釣	18.5%	9.1%		
	まき網	0.1%	7.9%	516.5トン	サバ 47.2%	採貝	17.1%	2.8%	2.1トン	サザエ 79.8%
	定置網	大型 1.0%	6.5%	130.4トン	イカ類 31.8%	はえ縄	7.3%	2.7%	4.7トン	ブリ類 19.0%
		小型 2.1%	7.1%	42.5トン	イカ類 29.9%					
	総漁獲量比の合計	73.0%								
壱岐	釣漁業	イカ釣 51.2%	62.4%	11.9トン	スルメイカ 76.6%	イカ釣	51.2%			
		その他の釣 26.6%	13.5%	5.0トン	ブリ類 40.3%	その他の釣	26.6%			
	採貝	11.2%	3.7%	3.2トン	サザエ 80.0%	採貝	11.2%	3.7%		サザエ 80.3%
	定置網	大型 0.1%	3.0%	183.5トン	イカ類 39.5%					
		小型 0.1%	4.5%	79.0トン	イカ類 43.8%					
	総漁獲量比の合計	87.1%								
北松	中, 小型まき網	2.0%	75.3%	1082.0トン	カタクチ 42.5%	その他の釣	24.2%	1.9%	2.0トン	ブリ類 14.1%
	定置網	大型 0.1%	2.5%	341.2トン	サンマ 27.2%	イカ釣	19.0%	2.3%	3.0トン	その他イカ 69.6%
		小型 4.2%	4.1%	27.2トン	イカ類 21.6%	その他の刺網	16.1%	3.1%	4.8トン	サザエ 7.0%
		総漁獲量比の合計	81.9%							
大村湾	小型底びき網	35.6%	21.8%	1.8トン	ナマコ 29.7%	小型底びき網	35.6%	21.8%		
	中, 小型まき網	0.1%	20.1%	100.0トン	カタクチイワシ 100%	その他の刺網	19.1%	12.6%		
	その他の刺網	19.1%	12.6%	2.0トン	イカ類 8.0%	その他の釣	16.7%	5.1%	0.9トン	マアジ 15.3%
	その他の漁業	12.1%	10.5%	2.6トン	ウニ 17.9%	その他の漁業	12.1%	10.5%		
		総漁獲量比の合計	65.0%							

海区名	特徴漁業	総経営 体数比	総漁獲 量 比	1経営体 当り漁獲量	主魚種と全体比	経営体数の 多い漁業	総経営 体数比	総漁獲 量 比	1経営体 当り漁獲量	主魚種と全体比		
西 彼	中, 小型まき網	1.0%	79.7%	1,869.7トン	マアジ	34.9%	その他の釣	46.5%	3.1%	1.2トン	タチウオ	18.0%
	イカ釣	2.5%	8.0%	56.4トン	その他イカ	93.1%	その他の刺網	16.8%	1.9%	1.9トン	イセエビ	9.9%
	総漁獲量比の合計	87.7%					採草	10.0%	1.2%	2.2トン	ヒジキ	
橘 湾	中, 小型まき網	1.3%	74.8%	1,083.8トン	カタクチイワシ	47%	小型底びき網	33.0%	6.9%	3.9トン	エビ類	21.6%
	小型底びき網	33.0%	6.9%	3.9トン	エビ類	22%	その他の釣	25.3%	2.3%	1.7トン	ブリ類	26.6%
	総漁獲量比の合計	81.7%					その他の刺網	14.9%	5.1%	6.4トン	マカジキ	14.2%
有明海	採貝	19.3%	16.0%	4.8トン	アサリ	87.9%	その他の釣	31.0%	2.5%	0.5トン	ヒラメ	12.8%
	その他の刺網	22.8%	10.7%	2.7トン	カレイ類	17.3%	その他の刺網	22.8%	10.7%	2.7トン	カレイ類	17.3%
	その他の漁業	9.2%	10.8%	6.8トン	タコ	62.8%	採貝	19.3%	16.0%	4.8トン	アサリ	87.9%
総漁獲量比の合計	51.3%											
五 島	中, 小型まき網	0.1%	61.2%	2,214.0トン	マアジ	48.0%	その他の釣	37.6%	1.8%	0.8トン	マダイ	23.4%
	大型定置網	1.0%	10.3%	215.8トン	イカ類	26.6%	イカ釣	23.2%	2.1%	1.5トン	その他イカ	61.8%
	小型定置網	6.1%	13.2%	37.9トン	イカ類	49.6%	その他の刺網	15.3%	3.7%	4.0トン	イセエビ	3.0%
	総漁獲量比の合計	84.7%										

次に、主漁獲対象魚種や、平成7年より同10年までの4年間の平均漁獲量(トン)、及び主漁業の総漁獲量とそれに対する各漁業の平均漁獲量の占める割合等からみた各海区の漁業の特徴について述べる。

1) 対馬海区

対馬は、古代アジア大陸と我国の本土との交流の際の津として、自然に津島と呼ばれたが、日本の弥生時代、中国の光武帝57年の後漢書に、初めて「ツイマア」と記され、その相似音から対馬となり、天智天皇の頃(669年)より、公文書に対馬国として記されている古い歴史を持つ島である。

その位置は韓国に近く、日本海の南からの入口部に、北北東より南南西によこたわり、浅茅湾を境にして、上島、下島の二つの島に大別される孤島で、東西の平均幅約12km、南北の平均距離70km、海岸線の総長は約800kmに達している。上島は湾曲部が多いリアス式海岸で、下島は上島よりやや長い、その西海岸は湾曲部が少なく、殆んど一直線の地形で、全島、対馬暖流の影響を直接に受けている。

表3.1及び3.2より、対馬海区はイカ釣、はえ縄、採貝、など、3つの漁業が8海区の中でそれぞれ1位を占め、2位に大型定置網、採草、3位にその他の漁業、地びき網、4位に小型定置網、その他の釣などがあり、県下でも漁業が盛んな海区である。

表3.4より、この海区で最も経営体数の多いものはイカ釣で、全体の40.7%を占め、その他の釣18.5%、採貝17.1%、はえ縄7.3%を合わせて、これらの4漁業種だけで83.6%を占めている。

次いで漁獲量からみると、総漁獲量26,217トンのうち、スルメイカを主とするイカ釣が11,341トン(総漁獲量の43.3%)、ブリ類を主とするその他の釣2,380トン(同9.1%)、同じくブリ類を主とするはえ縄が716トン(同2.7%)、クロマグロを主に漁獲するひき縄が1,610トン(同6.1%)とイカ類、ブリ類、マグロを主対象とする釣漁業の合計は16,047トン(同61.2%)となり、サザエ、アワビを対象とする採貝が746トン(同2.8%)で、これらをあわせると16,793トン(同64.1%)となる。また、経営体数は少ないが、漁獲量では大型、小型をあわせた定置網が、イカ類、ブリ類、トビウオ、マアジを主に3,564トン(同13.6%)を漁獲している。

これらより、対馬暖流域を季節によって南下、北上して回遊するイカ類(スルメイカ、ケンサキイカ、ヤリイカ、アオリイカ)、ブリ類(ブリ、ヒラマサ)、マグロ類(クロマグロ、クロマグロの幼魚)を対象とする、イカ釣、はえ縄、ひき縄、手釣などの釣漁業と、リアス式海岸のため入江や湾が多いことから、沿岸沿いに接岸するイカ類、ブリ類、トビウオ、マアジなどを漁獲対象とする定置網漁業と、沿岸域の殆どを占める岩礁帯に生息するサザエ、アワビを対象とする採貝漁業が、当海区を特徴づける漁業としてあげられる。

このような特徴は、対馬における漁業の発達と関係している。明治2年(1869年)まで対馬を支配した宗家は農業優先政策をとっており、土地を所有している者しか海岸の水産物をとる権利を与えず、特に海藻は当時肥料として貴重品とされていた。また、食糧不足から人口の増加をおそれ、外国人の滞在を許可しなかった。また、徳川幕府も、鎖国制度により造船に厳重な制限を加え、沿岸用の漁船建造に、大型堅牢な船を造ることを許可しなかったことなどから、島内需要と若干の島外品の生産に止まっていた。このため、対馬周辺における漁業は、福岡鐘ヶ崎から嘉吉元年(1441年)宗氏と共に渡島し、曲に居住した曲海士と、文禄(1592年)、慶長(1597年)の朝鮮の役の折、和泉佐野

より兵の食料調達係として移民した佐野の鰯網漁師と、文化13年（1816年）広島浅野家と宗家との婚姻により渡島を許されて入漁料を納めてはえ縄、一本釣、イカ釣、などを行った広島と山口（長門）からの地元民でない他国人達だけの専業であった。また、対馬では漁業者は賤業と考えられていた関係から、長期にわたって漁業は盛んな産業ではなかった。

その後明治になって、島外より渡来した釣業者、定置網業者の技術が伝わり、従来からの採貝、採草と共に今日に至っているものと考えられる。

表3.4 平成7～10年の4年間の平均経営体数と対象魚種（対馬海区）

漁業種類	年度					全体に占める%	4ヶ年平均の漁獲量	主な対象魚種（トン）	備考
	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	4ヶ年平均				
地びき網	1	1	1	0	1				
ひき回し船びき網									
ひき寄せ船びき網									
小型底びき網									
中・小型まき網	5	4	3	4	4		小型2,066トン(7.9%) マアジ(842) サバ(976)		
その他の刺網	111	109	108	114	111	5.3	617トン(2.4%) プリ(29) マダイ(10) イサキ(13) トビウオ(13) 貝類(321, 内サザエ(314) イカ類(35)		
その他の敷網	1	1	1	4	2		439トン(1.7%) マアジ(80)		
大型定置網	14	13	13	12	13	1.0	1,695トン(6.5%) イカ類(539, 内スルメイカ(338) プリ類(332) トビウオ(110) サバ(102) マアジ(64)		
小型定置網	45	45	43	44	44	2.1	1,869トン(7.1%) イカ類(558) プリ類(369) マアジ(188) トビウオ(130)		
はえ縄	159	154	152	146	153	7.3	716トン(2.7%) プリ類(136) マダイ(74)	ひき縄釣1,610トン(6.1%) クロマグロ(1,389トン) カツオ類(92トン) タチウオ(34トン)	
イカ釣	944	892	870	710	854	40.7	11,341トン(43.3%) スルメイカ(9,011) その他のイカ(2,311)		
その他の釣	404	387	386	371	387	18.5	2,380トン(9.1%) プリ類(1,771) イサキ(120) マダイ(93) マグロ(47)	ブリ飼付漁業	
採貝	385	379	378	295	359	17.1	746トン(2.8%) サザエ(595) アワビ(87)		
採草	86	79	78	30	68	3.2	1,246トン(4.8%) ヒジキ(1,062) ワカメ(184)	その他の網漁業 漬漁業777トン(3%)	
その他の漁業	85	86	79	149	100	4.8	715トン(2.7%), ウニ(344), タコ(59),	ブリ類(629トン) マグロ(15トン)	

経営体数 2,096 総漁獲量 26,217トン

2) 壱岐海区

壱岐の島は、周辺に10余りの小島をもち、壱円形をしており、海岸線は湾曲に富んでいるので良港に恵まれている。総延長は140kmに及び、対馬暖流の影響を強く受ける、玄海灘に浮かぶ孤島である。

三世紀の後半に書かれた史書の「魏志」倭人伝によると、「朝鮮半島から対馬・壱岐を経て海を渡ってくると松浦につく…」とあり、醍醐天皇の命により延長5年（927年）に藤原時平が編集完成した法令集「延喜式」には、諸国からの貢納品のなかに壱岐のアワビが記述されている事から、対馬とならび古い歴史をもつ島である。

また、壱岐・対馬の中間よりやや壱岐より、壱岐勝本と対馬とのほぼ中間地点に、七里ヶ曾根という天然礁が、北東から南西方向に大きく、長く連なっており、その礁の上を対馬暖流が貫流して、汐目、潮境が形成されるため好漁場となっている。

表3.1, 3.2より壱岐海区では、イカ釣が対馬に次いで2位を占め、採貝で4位を占めている以外、上位を占める漁業はみられない。

表3.5よりこの海区で最も経営体数の多いものはイカ釣で、全体の51.2%、その他の釣26.6%、採貝11.2%となり、これらの3漁業種だけで89%を占めている。

次いで漁獲量からみると、総漁獲量12,263トンのうち、スルメイカを主とするイカ釣が7,653ト（62.4%）、ブリ類を主とするその他の釣が1,659トン（13.5%）、サザエ、アワビを主とする採貝が452トン（3.7%）となり、これらを

あわせると9,764トン（79.6％）となる。

以上のことから、当海区は対馬海区と類似しており、イカ類（スルメイカ、ケンサキイカ、ヤリイカ、ブドウイカ、アオリイカ）、ブリ類（ブリ、ヒラマサ、カンパチ）、マグロ類（クロマグロ、クロマグロの幼魚）などを主漁獲対象とする釣漁業と、サザエ、アワビなどの根付き資源を対象とする採貝漁業が、海区を特徴づける漁業としてあげられる。

イカ釣や採貝漁業という特徴的な宍岐の漁業については、前述した「延喜式」に記されているアワビの貢納や、徳川時代に始められた將軍の代替りごとに、朝鮮からの通信使が慶賀使節として江戸へ赴く途中に宍岐に立寄ることになっており、四代將軍家綱の明暦元年（1655年）には勝本に480名余が7月21日より26日まで滞在し、その折、スルメ500斤、アワビ2,000貫を消費したと記録されていることから、この時代からイカ釣漁業と採貝漁業が盛んであったと思われる。

宍岐は、元龜2年（1571年）より、平戸藩松浦氏の所領として明治2年（1869年）まで続く歴史の中で、宍岐を8つの浦（芦辺、郷ノ浦、勝本、八幡、印通寺、湯の本、瀬戸、小崎）に分け、各浦民の入会を条件付きで許可したが、その中に「アワビは幕府の支那貿易品であり…」があり、長崎商館からの輸出品である俵物（フカヒレ、ナマコ、アワビ）の一つとして漁獲が奨励されたことから、アワビを主体とする採貝漁業が盛んに行われたと考えられる。

また、宍岐周辺は七里ヶ曾根を代表とする多くの天然礁があり、対馬暖流の影響からイカ類の回遊が多く、ほぼ周年にわたってイカ類（12～1月スルメイカ、2～3月ヤリイカ、4～5月ケンサキイカ、8月ケンサキイカ、9月ブドウイカ）が釣れ、以前はブリを釣るのが本当の漁師であり、スルメイカをとるのは半端漁師と考えられていたのが、ハマチ養殖が普及しだして、天然ブリの価格が苦勞のわりにあがらず、反面、都市部で生イカがよく売れるようになり、自家加工とあわせ家族全員が働ける漁業として確立したことなどから、イカ釣漁業が主体になったものと考えられる。

表3.5 平成7～10年の4年間の平均経営体数と対象魚種（宍岐海区）

漁業種類	年度					全体に占める%	4ヶ年平均の漁獲量	主な対象魚種（トン）	備考
	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	4ヶ年平均				
地びき網									
ひき回し船びき網									
ひき寄せ船びき網	1	1	1	1	1				
小型底びき網									
中・小型まき網									
その他の刺網	82	80	78	63	76	6.1	290トン(2.4%)	イカ(15) イサキ(22) エビ(9) 貝類(サザエ21) マダイ(14)	
その他の敷網	1	1	0	0					カタクチイワシを漁獲していた。
大型定置網	2	2	2	2	2		367トン(3%)	イカ類(145 内スルメイカ(123)) ブリ類(44) マアジ(31) イサキ(20) マグロ(20)	
小型定置網	7	6	6	10	7		553トン(4.5%)	イカ類(242 内スルメイカ(177)) マアジ(77) ブリ類(46) イサキ(33) トビウオ(11) マグロ(10)	
はえ縄	8	8	9	8	8		77トン(1.0%)	ブリ類(43) マダイ(7)	ひき縄149トン(1.2%) マグロ(81トン) サワラ(18トン)
イカ釣	698	677	651	536	641	51.2	7,653トン(62.4%)	スルメイカ(5,860) その他のイカ(1783)	
その他の釣	317	318	315	383	333	26.6	1,659トン(13.5%)	ブリ類(668) マグロ(358) イサキ(146) マアジ(74) マダイ(41) カツオ(34) サワラ(5)	
採貝	132	137	125	165	140	11.2	452トン(3.7%)	サザエ(363) アワビ(34)	
採草	4	4	5	3	4		610トン(5.0%)	ヒジキ(564) ワカメ(46)	
その他の漁業	45	41	54	24	41	3.3	453トン(3.7%)	ウニ(423) タコ(20) ナマコ(5)	

経営体数 1,253 総漁獲量 12,263トン